

令和6年
第15号

月刊ヨハク新聞 11月号

イベントの紹介

「そうだ川越のタイへ行こう！」

川越のタイ料理屋「レオテーチャン」で、タイ料理作りの体験と一緒に料理を楽しむ企画を開催します。本企画は、モの法人サポーターあおい、モの法人山正、訪問看護ステーションスクラム、ヨハクのヨハクが共催しています。詳細は以下をご参照ください。

日時：2024年11月19日（火）10:00～14:00
場所：レオテーチャン

川越市新富町2-9-17 イイダビル1F
(本川越駅 徒歩2分、川越駅 徒歩二分)

会費：1,000円

申込：ヨハクまでご連絡ください。
締切：11月15日（金）

皆様のご参加をお待ちしております！



そうだ川越の タイへ行こう！



川越のタイ料理屋「レオテーチャン」でタイ料理作りの体験と一緒に料理を食べる企画です！！

日時：2024年11月19日(火)10:00～14:00
場所：レオテーチャン (川越市新富町2-9-17 イイダビル 1F)
会費：1,000円

共催：NPOサポートあおい・NPO山正・スクラム・ヨハク



おすすめBOOK

「ゆっくり、いそげ カフェからは じまる人を手段化しない経済」

著者 影山 知明

著者は中央線・西国分寺駅の近くで「クルミドコーヒー」という喫茶店を営んでいます。著者は「ギブ（贈与）から始める交換」を提唱しており、良い仕事を通じて受け手に価値を提供できれば、受け手は健全な負荷感を抱き、それに応えようとする気持ちが生まれると述べています。この感情は、贈り手に直接的・間接的な利益をもたらします。

著者はコラムの中で「贈与論」にも言及しており、現代の経済が「テイクを動機とした交換」で成り立っていることを指摘しています。この視点から、著者は「ギブ」から始めることで、より持続可能な信頼に満ちた関係を築くための具体的なヒントを与えてくれます。著者のアプローチは、ただ単に商業的な利益を追求するのではなく、相互の価値交換を重視した新しい経済観を提示しています。



目の前の
人を
大事に
する。

深谷太一 弁護士 連載コラム⑨



「ある読者からのおたより」(8 月号まで4回掲載) を読んで考えたこと

傷ついた経験がアイデンティティとなりやすいー私が受けてきた傷として、アトピー性皮膚炎がある。この病気による傷は物理的にも心理的にもある。しかし、おたよりで触れられていた、目に見えない誰かによる傷もあるのではないか。たとえば、「可哀そう」であるとのまなざしは、特定の誰かから向けられていたとしても、目に見えない社会からの差別に関係しているかもしれない。これは、自分自身への差別と内面化されていく。辛さを共有したいのに分かってもらえず、諦めてしまうという悪循環に陥る。今も諦めたままであり、このように発信する機会には稀である。また、民間療法も含めた何らかの「治療」行為は、この「可哀そう」という感覚と深く結びついているように感じる。これが私の弁護士としてのスタンスにも大きな影響を及ぼしていると思う。

さて、読者の方からご要望いただいたおススメの本は次号以降で紹介させていただきます。

文責：戸田竜也（代表）